

世界経済・金融市場動向(日本)

先月の振り返り

01 日本株式市場

3月の日経平均株価は上昇しました。上旬は、初の4万円超になる場面があったものの、日銀金融政策決定会合においてマイナス金利解除の可能性が高まったことから円高が進行し、株価は下落しました。下旬には、日銀がマイナス金利解除を行うも、緩和的な金融環境を維持することへの安心感に加え、円安が進行したことで再び史上最高値を更新しました。

02 日本債券市場

3月の日本長期金利は上昇(価格は下落)しました。上旬は、日銀の政策修正観測が根強い中、春闘で満額回答が相次いだほか、米国の底堅い経済指標を受けて米長期金利が上昇したことなどから金利は上昇しました。下旬にかけては、金融政策決定会合にてマイナス金利解除が決まったものの、事前報道があったことや、緩和的な金融環境が維持する見通しから金利の上昇幅は縮小しました。

経済金融環境

01 日本経済環境

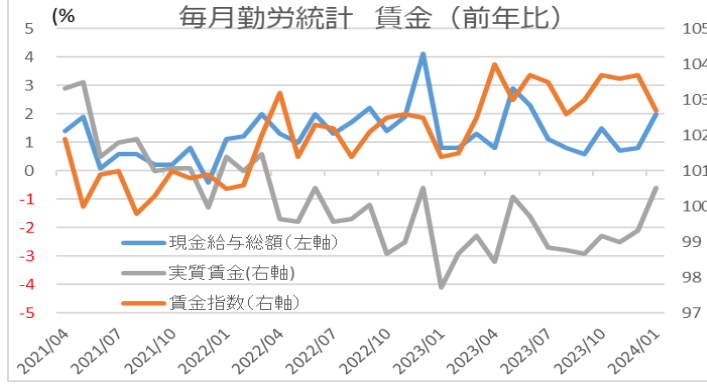
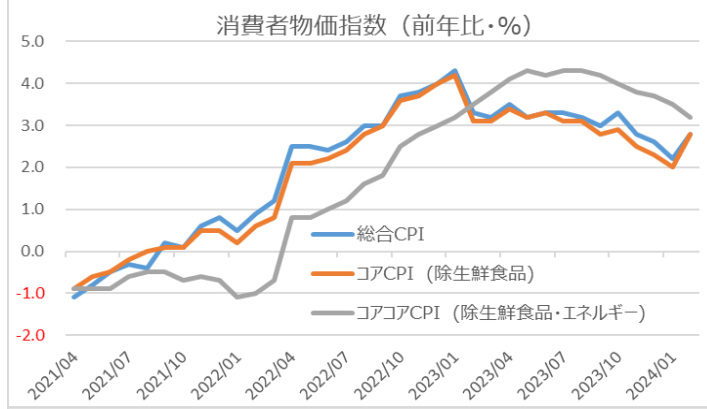
2月の全国コアCPIは前年同月比+2.8%と4か月ぶりに上昇しました。ただ、政府の物価対策でエネルギー価格の抑制があったことによるベース効果の影響を除けば、食料品の伸びは鈍化傾向、サービス価格についても頭打ちとインフレ率は減速傾向であることが確認されました。毎月勤労統計では引き続き実質賃金はマイナスで推移しているものの、春闘での賃上げによる賃金と物価の好循環が生まれる中で、今後プラスに転じることが期待されます。

今後の見通し

01 日本株式市場

堅調な国内経済に加え、日銀のマイナス金利解除による円安進行を追い風に企業収益の改善期待が株価の支えとなると考えます。一方で、日銀による追加利上げや、ここもとの急速な株価上昇の過熱感が警戒され、株価の調整リスクには留意が必要と考えます。

資本効率改善に向けた動きは進展しており、今後も政策保有株式の売却や自社株買いなどの動向が注目されます。



(注) データ期間：2021/4/1～2024/3/31
(出所) Bloombergのデータを基にFDAlco作成

02 日本債券市場

3月の金融政策決定会合にて政策修正が行われたものの、物価と賃金上昇の好循環が見通せるまでは追加の利上げは難しいことからレンジでの推移になると考えます。一方で、賃金の上昇が想定以上に進み、物価上昇圧力が強まった場合、金融引締による金利上昇圧力への注意が必要です。また、インフレ鈍化や雇用市場の悪化などから米国での利下げ観測が強まれば、金利は低下すると想定します。



■当資料は、情報提供を目的として、FDAlcoが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

世界経済・金融市場動向(米国)

先月の振り返り

01 米国株式市場

3月のS&P500指数は上昇しました。上旬は、米国の物価関連指標が市場予想を上回り、利下げ期待の後退から長期金利が上昇したことや、小売売上高の下振れから米国景気の先行き不安から株価は下落しました。下旬では、FOMCが想定よりハト派であったことや米国半導体大手の決算内容が好調であったことなどから株価は上昇し主要3指数は史上最高値を更新しました。

02 米国債券市場

3月の米国長期金利は上昇(価格は下落)しました。上旬では物価関連指標が市場予想を上回り、米国の早期利下げ期待が後退したことで、米国長期金利は上昇しました。下旬では、FOMCが政策金利の据え置きを決定し、政策金利の見通しやパウエル議長の発言内容がハト的であったことから、FRBによる利下げが6月にも行われるとの思惑が強まり、上昇幅は縮小しました。

経済金融環境

01 米国経済環境

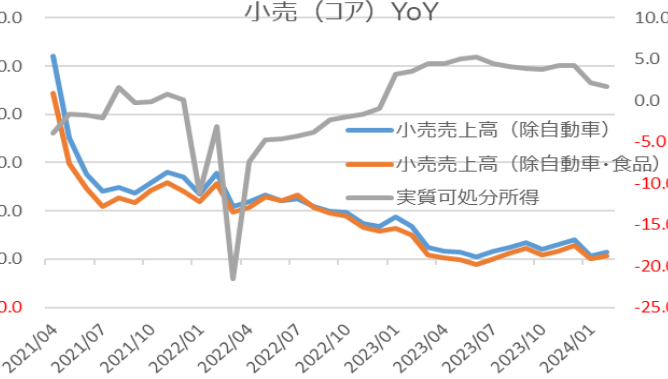
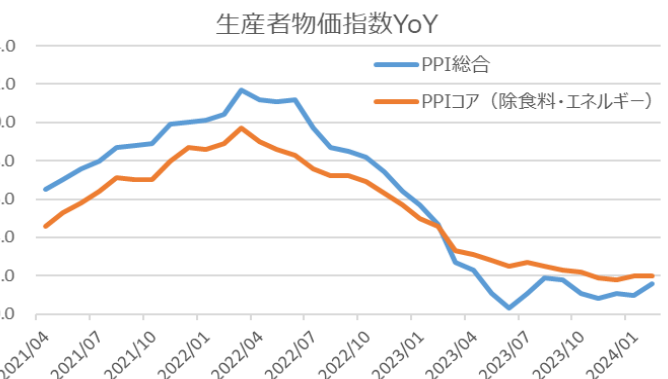
PPIは市場予想を上回り、6か月ぶりの大幅な上昇となりました。燃料や食料品の価格が上昇するなど、インフレの高止まりが示唆されました。一方で、小売売上高は市場予想を下回り、前月の数値も下方修正されました。労働市場の冷え込みがやや見え始め、金利の高止まりなどから、これまで堅調であった個人消費に対する懸念が示唆されたかたちとなりました。

今後の見通し

01 米国株式市場

生成AI関連への強い期待感に加え、底堅い経済環境からソフトランディングを前提に緩やかにレンジが切り上がると考えます。一方で、ここまでの急速な株価上昇への高値警戒感もあり、調整リスクには注意が必要です。

今後の経済指標等をうけて年内の利下げ回数の見通しが減少した場合や、経済ファンダメンタルズに減速感が見られた場合は、ソフトランディング期待が後退し株価は下落すると考えます。



(注) データ期間：2021/4/1～2024/3/31
(出所) Bloombergのデータを基にFDAIco作成

02 米国債券市場

FRBは年内3回の利下げ見通しを維持したものの、利下げ開始時期については不透明感が強いことからレンジでの推移になると考えます。一方で、景気減速やインフレの低下が示唆されるような場面では徐々にレンジを切り下げる展開も予想されます。

ただ、米国のソフトランディング期待や堅調な経済指標が相次ぐ場合には利下げ時期の後ずれが強く意識され、金利の上昇要因になると考えます。



■当資料は、情報提供を目的として、FDAIcoが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。